

日韓小学校国語教科書を比較して

山本 美千枝

1 はじめに

教師現役時代に足立悦男先生のご指導のもと、大学院で『日韓昔話絵本の比較と教材化の研究』をまとめた。内容は前半が日韓昔話絵本の理論で、後半は理論に基づいて教材化し、それを日本・韓国・中国の小学校同学年の児童に同じ授業をして、3国の児童感想比較をまとめたものである。3国の児童感想の違いは民族性のみならず、国語教科書の内容が与える影響もあるのではと思える節もあった。

偶然にも、2011年度は、日本も韓国も小学校の教科書が、新教育課程を受けて適用になった。そこで、10年前と現在の日韓国語教科書を比較してみたい。

2 日本・韓国・中国の授業実践比較

2003年の大学院生の時に、3国の児童たちに昔話絵本比較の授業実践をした。日本と韓国の3年生と、日本と韓国と中国の5年生にである。ただし、この感想比較は3国の多くの児童のデータではない。あくまで、3国の学校同士の児童の感想比較である。そこから、その国らしさを感じてもらえばよい(注1)。

日・韓・中3国の児童の感想分析の結論からいえば、韓国と中国の児童は、主題を把握する力や状況を判断する力に優れていたことである。日本の児童は、主人公に同化して、相手の気持ちになれる素直さや優しさ、情緒的な豊かさ(「うれしい」「おもしろい」「びっくりした」と言った表現が多い)はあるが、話全体をとらえる力や教訓を読み取る力は、韓国や中国の児童に比べると弱いという結果がでた。

また、愛国心も韓国と中国の児童からはしっかりと得ることができたが、日本の児童にはそのような表現はほとんどみられなかった。

韓国の児童感想の特徴の一つに、「ウリ(わたしたち)」という表現が多く見られた(分析当時はまだ韓国語を学んでいなかったのだからわからなかったが、今回再度原文に目を通すことで見えてきた)。韓国では普段からよく使う。「私たちの国」などは日本語と同じであるが、「私の母」「私の家」というような表現を、「私たちの母」「私たちの友達」「私たちの家」「私たちの学校」などと使う。韓国は長い歴史の中で、500回以上の侵略を受けてきた。そのような環境の中で、民族的意識を常に持ち、お互い助け合い、協力し合いながら一家族のように支え合ってきた

(16)

その気持ちが「ウリ」に現れているのだという(注2)。常に社会の中で共同体意識を持ち続けることが、愛国心へもつながっていくと推測される。

また、韓国第七次教育課程の初等学校教育目標の一つに「日常生活に必要な基本的習慣を育て、隣の国を愛する心がけを持つ」とある。教師は意識して機会あるごとに指導しているのであろう。

さらに中国の児童も、自分の国のよさを強調している感想が何点もあった。しかも、多くの児童が「みんな」「お互い」「友(友人、友好、友情等)」という単語を頻繁に使っていた。日本や韓国を「みんな、お互い、友として」考えることができているのだ。残念なことに、2国に比べ日本の児童には、国際的視野に立った考え方や愛国心的な思いが希薄であった。

このような差異は国語教科書の影響もあるのだろうか。韓国の国語教科書を分析してみることにする。

3 日韓国語教科書比較

授業実践を行った2003年当時の教科書の背景を探らねばならない。韓国では第七次教育課程(2000年から順次実施)で、日本では平成14年度(2002年)からの学習指導要領が実施されていた。比較するにあたっては、2002年発行の韓国初等学校国語教科書全冊(注3)と、金京姫著『日・韓の小学校国語教科書の考察』(注2—第六次教育課程)、鈴木文子著「日本の道徳テキストにみる規範伝達と教育—韓国との比較」(注4)、日本の『小学校学習指導要領』と『小学校学習指導要領解説総則編』『国語編』(注5)を参考にした。

(1) 韓国の国語教科書(第七次教育課程)

韓国の小学校の教科書は国定で無償である。教育科学技術部(韓国の文科省)により改定される。第七次教育課程は「学習者の自立と創造性を伸長するための児童・生徒中心の教育課程」と明記される。国語は「話し方・聞き方」「読み方」「書き方」の3冊が1学期と2学期(2学期制)に配布され、1年間で合計6冊の教科書で学ぶ。3領域は毎週2時間ずつで授業される。領域は「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」・「国語知識」・「文学」の6分野で構成されている。

(2) 内容分析と比較

① 単元の内容

韓国の第六次と第七次教育課程は、児童の活動を中心に単元の内容を設定している。「話し方・聞き方」では、自分の意見を述べる討論の時間が全ての単元に含まれている。「読み方」では、教材を声に出して読むことができるように作られている。「書き方」では、児童が思う存分思いを書くことができる場を提供している。

3冊の教科書は連携され、単元名は共通したものとなる。

教授・学習方法留意点の「読む指導」に、「筆者の目的、文の形式や特性、読者の観点などに留意して能動的に意味を形成する学習活動を強調する。特に、読んだ文に対して各自の意見を交換する討議学習活動を強調する」とある。討論の時間を重視することで、自分の考えを相手に伝える大きな力が身についていく。

② 作品の数

日本と差異が著しいのは、児童に多様な言語状況を提供するために、学習内容を時間単位で構成して、異なる題材を豊かに使って時間別に編集されていることである。

そのために原作全てを記載しない場合が多い。作品の一部を読んでは学習の手引きへと向かう。そのたびに主題や自分の考えを述べる機会は多くなる。即時の判断力はこういう訓練から生まれるのだろうか。だが、いろいろな作品に出会う機会は増えるが、一作品まるまる向き合う時間は限られ、じっくりと作家と対話する醍醐味には欠けるのではないだろうか。また、物語教材はリアリズム系の作品が多く、ファンタジー作品が少ない（注2）

日本の教科書の場合、ファンタジーも多く、文学作品が中心に構成されていて、一作品に十数時間の授業時間をかけることも多く、主人公の心情の変化や行間の作者の意図まで考えさせることもある。主人公だけでなく登場人物との関わりも細部に渡り読み取っていく。相手を思いやる豊かな心情は、授業中のこのような場面の多さやきめ細かさから培われるのであろうか。余りにも細部を掘り起こしすぎて、全体や主題が見えなくなってくることも否めない。ある作家の方が「自分の作品が教科書に載ると、多くの時間を使って大切な作品を切り刻まれ、解体させられているような錯覚に陥る。読者にはさりと読んで楽しんでもらいたいのに」と話されたことが印象に残っている。

③ 外国作品と著作権

金京姫によると第六次教育課程における国語教科書には、外国の文学作品は圧倒的にイソップの作品が多いと分析している。しかも1年生から6年生まで全学年に掲載されている。イソップ寓話は簡潔で人生教訓的な知恵を授ける内容が多く含まれるという特徴がある。韓国は儒教の国であるところから、儒教の精神が強く、教訓性や正義や善をテーマにする作品が好まれる所以である。反面、外国現代作家の作品が少ないという傾向が浮かび上がってくる。

韓国の書店に置かれている韓国昔話絵本の最後のページにも、「この昔話にはこのような教訓が含まれる」という注釈が書かれている絵本をよく見かける。このような注釈がなされている絵本ほど、保護者には受けがいいという。

(18)

残念なことは、外国作品に作家名や国名が記入されていないことである。児童の言語活動を重視するため作品中心ではないからが理由のようである（注2）。

私の教師現役時代、文学作品に接した場合、作品と同じくらい作家も大切に教えてきた。授業中も「ここでは〇〇さんは（作家名）、こんな風に表現しているけど」となるべく作家名を何度も声にすることで、児童たちに印象づけ、作品だけでなく作家に対するイメージもふくらむよう意識づけた。また、作品の書かれた背景や作家歴、作家の他作品も必ず紹介し読み語りもした。児童たちは、図書館や書店で作家から本を選ぶことも多くなった。1年生の保護者が、書店で「〇〇さんの本がほしい。」とわが子にねだられた。「1年生から作家を意識するのですねえ」と驚いておられた。

韓国の友人の1人がコミック『キャンディ、キャンディ』が小さい頃大好きだったと言うが、日本のコミックであると知ったのは大人になってからだそうで、韓国のコミックではなかったことにショックを受けたという。現在のコミックでも『クレヨンしんちゃん』は畳の場面をオンドルに変えて出版されているそうなので、日本のコミックとは知らない年長者は多いらしい（注6）。『クレヨンしんちゃん』ハングル版を数冊求めて調べてみたが、こたつはそのままであったものの、オンドルとして表現された場面は見つからなかった。

また、日本の絵本作家林明子の作品は韓国で人気があり、数多く翻訳されている。『はじめてのおつかい』という作品をみると、主人公である女の子の名前も韓国名であり、一見韓国の絵本と間違えそうで、児童なら韓国の絵本だと疑いもしないのではなからうか。日本では、今や小学校から著作権についても教えているが、韓国ではまだまだ緩やかなようである。

④ 昔話

昔話の教育的価値は高い。韓国の第六次教育課程教師用指導書には、「昔話は想像力を養う。子どもたちの言語能力を養う。韓国的抒情を進化させる。読者に楽しさを与えると同時に教訓を与える。昔話の中には祖先の風習、習慣、生活、信仰等があり、祖先の智慧や素朴な夢があり、伝統文化を継承、発展させる。語ることによって、聞く側と語る側の人間関係が深まる」とある（注2）。

全学年にそれらは教材として配当されている。要旨だけの昔話もあることから数は多い。第六次国語教科書では、昔話は1年—8話、2年—6話、3年—17話、4年—17話、5年—15話、6年—13話掲載されている。高学年になると、昔話を討論の主題に持ってきたり、劇を作ってみたりする試みも入っている。中には日本の教科書にも採用されている「三年とうげ」（3年生）、「へらない稲束」（3年生）「こかげにごろり」（5年生）もみえる（注2）。全てが韓国の昔話であろう（外国名が記載されないので、現時点では確実に判断できない）。

日本の場合、1作品全文が掲載されるため、作品の数は少ない。出版社によって数も違う。1年—1～3話、2年—1～2話、3年—1～2話、4年—1話（6社の出版社のうち2社が1話掲載）、5年—1話（3社掲載）、6年—1話（1社のみ）である。上学年になると途端に昔話とは縁がなくなる。昔話は決して下学年までの対象ではない。昔話こそ、幼児から大人まで楽しめる内容なので上学年でなくなるのは残念である。

日本の特徴としては、方言を生かして語っていることと（韓国では標準語で、解説的な内容説明が多い）、外国の昔話も取り入れていることである。韓国、中国、ロシア、モンゴルなどアジアの作品にも親しませている。特にロシアの「おおきなかぶ」は教科書6社全部1年生に掲載している。どこの出版社でも韓国の昔話は3年生で学ぶ。

④ 道徳のテキスト

②で韓国ではリアリズム作品が多いと述べたが、道徳のテキストにもそれは当てはまる。鈴木文子によると、日本の道徳の副読本で使用されている教材は寓話・物語の使用度が韓国よりも圧倒的に多い。しかも擬人化された動物を主人公とした寓話が多く取り上げられている。だが、韓国では現実の生活を背景として創作された文章である「生活文」がほとんどで、全て人間が登場人物であると指摘している（注4）。

道徳の主題でも、「礼節」は2番目に多く、伝統的な儒教文化の礼節を学校教育でも強調している。特色的な項目は「自主」という要素である（注4）。

友人の1人から「道徳の授業だけでなく、学校でも家庭でも小さい時から『自分の考えをはっきりと言いなさい』といつも言われて育った。どこの家庭でもそうだ」と、聞いた覚えがある。

本村汎・洪上旭は、韓国の母親がわが子に抱く理想像は概して「独立心・自主性の子」、「創造力の子」が多く、日本の母親は「情操の豊かな子」、「約束を守る子」、「はっきりと意見を言う子」、「勤労を尊ぶ子」が多いという結果を出している（注7）。「判断力重視の韓国と心情重視の日本」は、国語だけでなく道徳面からも言えることがわかる。

そのほか、詩や伝記についても違いがあり、日本の教科書のさらなる特徴もあるが、今回は比較の対象とはしない。

4 日韓新教科書比較

韓国では「2009年改定教育課程」で、日本では「2008年新学習指導要領」で、両国とも小学校は2011年度から全面实施されている。

(20)

(1) 韓国の国語教科書

1998年の「第七次教育課程」以後は、必要に応じて改定するために、「2007年改定教育課程」の次が「2009年改定教育課程」となる。「2009年改定教育課程」は「未来型教育課程」とし、「創意と韌性（粘り強さ）を強調するカリキュラムに改編した」とある。（注8）

＜改定の方向性＞

「したい勉強、楽しい学校になるように」

- ① 児童・生徒の過度の学習負担を減らす
- ② 児童生徒の学習の興味を誘発する
- ③ 断片的知識理解教育ではない、学習する能力を養う
- ④ 過度の暗記中心教育から、思いやりと分かち合いを実践する創意人材を養成する教育への変化を追求する

小学校の教科書は、2009年に小学1・2年生、2010年に3・4年生、2011年に5・6年生が段階的に適用となっている。

新しい国語の教科書を見てみると（注9）、1・2年生は「話し方・聞き方」「読み方」「書き方」の3冊が1学期と2学期（2学期制）に配布され、1年間で合計6冊の教科書で学ぶが、3年生から6年生は「読む」と「聞く・話す・書く」の2冊になり、1年間で4冊の教科書で学ぶ。どの教科書にも、巻末には選択シールやカード等がついていて、楽しく授業に参加できる工夫がなされている。

さらに、何よりも、詩と文学作品に著者名が明記されたことが進歩した点といえる。しかし、絵本作品の場合、画家名がないのは残念である。（日本の教科書は、著者名、画家名、外国作品の場合、訳者名まできちんと明記されている）。

(2) 日本の国語教科書

3－(2)で韓国の教科書と比較しながら述べた日本の教科書は、2002年の学習指導要領にそったものである。2007年度の教科書研究センター報告書（注10）によると、さらに海外と比較しての日本の国語教科書の弱点がみえてくる。

日本の国語教科書は

- ・ 厳しい問いかけが足りない。
- ・ 言語の重要な機能の一つである思考様式、論理的な思考のあり方そのものが、明確に取り上げられていない。
- ・ 海外の教科書に比べ、長い読み物が少ない（韓国以外の国）。
- ・ 読書に関する具体的な目標が提示されていない。
- ・ 低学年の教科書は、子どもの能力を過少評価しており、内容が貧弱になっているのではないか。

- ・ 小2の教科書を比較すると、語彙数は諸外国が日本の約2倍となっている。日本の方が抽象語も少ない。季節を表す言葉は多い。
- ・ 人間同士の結びつき、社会的コミュニケーションに関する内容がより薄い。
- ・ 幅広い教材が学習に利用される環境を整えるには、学校図書館の機能強化が必要であると考える。

と、述べられている。

こうした報告やPISA調査の結果を受けて教科書改定がなされたのであろう。2011年度から全面適用となった小学校学習指導要領では「子どもたちの“生きる力”をよりいっそう育むことを目指す」とある。「“生きる力”とは知・徳・体のバランスのとれた力」のことで、「変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てることが大切」とある。

この目標をもとに作られた3社の小学校国語教科書（注11）をひも解いてみて驚いた。日本人の弱点ともいえる思考力・判断力・表現力の育成を重点化した内容になっていた。コミュニケーション能力を育むための教材があらゆる場面で工夫されている。

また、日本の伝統や文化を理解するために神話・昔話・短歌や俳句、中学で習っていた古文や漢文まで取り上げてある。狂言や枕草子、平家物語など、どんな切り口で興味を持たせる授業を展開できるか、想像しただけでも国語教師のやる気をそそる教科書群である。古来の伝統文化に接する機会を増やすことで、日本人として誇りを持ち、愛国心も湧いてくることを期待したい。

さらに、読書や図書館利用の仕方、新聞を使った授業、まとめ方や発表の仕方などがふんだんに取り入れられている。どれもこれも今まで教科書提示がなかった分、司書教諭として各学年や各教室で教えてきたことばかりである。今年からは、担任が子どもたちと一緒に教科書からしっかりと学べる。司書教諭は応援体制として強化していける。思い切った教科書改革がなされているように思う。

5 昔話作品比較

韓国の昔話「三年とうげ」と「木かげにごろり」は、日韓の教科書共に掲載されているので、原作や学習の手引きを比較してみることにする。

この2作品は、日本で韓国昔話絵本として出版されている。『三年とうげ』は作者と画家が在日二世の女性コンビで、『木かげにごろり』は作者が在日二世、画家が夫人で韓国人という夫婦コンビである。

どちらも発想の転換をして幸せになるという機知に富んだ昔話である。横暴な権力者に、力では勝てない民衆が知恵を働かせてたくましく生きていくという、典型的な昔話の面白さを味わうことができる。

(22)

(1) 「三年とうげ」

日本の教科書では「3年生 下」、韓国では「3年生 2学期」の「読む」の教科書に掲載されている。

A 韓国「三年とうげ」

七単元目「心を読む」の中の4作品目が「三年とうげ」。4作品とも漫画で表現されている。4作品とも、教科書用の書き下ろしと考えられる。

<単元目標> (筆者訳)

○ まんがでは人物の気持ちをどのように表しているのでしょうか。

まんがは文と絵で人物の気持ちを表します。人物の気持ちがどのように表現されているのか調べてまんがを読んでみましょう。

人物の気持ちを考えてまんがを読んでみましょう。

顔の表情と動作を見て、人物の気持ちや考えを知ることが出来ますか？人物が何を考えているのか話してみましょう。

人物の気持ちを考えて「三年とうげ」を読んでみましょう。

「三年とうげ」 イ・グン作

(＊5ページに渡り、漫画で表現されている)

<学習の手引き>

○ 「三年とうげ」を読んで、問いに答えてみましょう。

(1) 三年とうげの言い伝えは何ですか？

(2) 三年とうげで転んでも、長く生きることが出来る方法は何ですか？

(3) おじいさんがまた三年とうげへ行き、どんなことをしましたか？

○ 「三年とうげ」をもう一度読んで、おじいさんの気持ちを調べてみましょう。

＊4コマに老人の表情が抜粋されて描かれている。

・三年とうげで転んだ場面

・三年しか生きることができないとおばあさんに告げた場面

・三年とうげでもう一度転べと言われて、怒っている場面

・長生きできる方法を聞いた場面

○ 人物の気持ちに似合うよう、吹き出しの中に入る言葉を書いてみましょう。

＊2コマの吹き出し。

・三年しか生きることができないと、おじいさんから告げられた時のおばあさんの顔。

・「一度転ぶと三年生きる、二度転ぶと六年」と説明したあとの息子の顔。

*この作品では、長生きできる方法は通りがかった若者（しよいこを背負い、本を持っている）が息子に教えている。息子は「本の虫のお兄さんがそう言った」と説明している。

今までに習った内容を整理してみましょう（単元のまとめ）

1. まんがに出てくる人物の気持ちや考えを話してみましょう。そのように考えたわけも話してみましょう。
*金持ち中年男性の顔のイラストとふきだし。怒る、驚く、笑う顔の3種類。
2. 好きなまんがを友だちと一緒に読んで、人物の心がよく表現されたところを説明してみましょう。

B 日本「三年とうげ」（光村図書 平成4年からの採用）

単元目標「民話や物語の組み立てを考えよう」（読む）

<出典> 『さんねん峠』（李錦玉 作 朴民宜 絵 岩崎書店 1981）

- ・最後の文章が、教科書では「うたったのは、だれだったのでしょうかね。」で終わるが、原作ではその次の文章「それはね、おじいさんのさきまわりをして、かくれていたすいしゃやのトルトリだったのです。」とある。作者が児童に自由に想像させたいとの思いから、教科書では意図的に省略された（注12）。
- ・教科書の挿絵は、画家は同じであるが、教科書用に描き替えてある。全体の色彩が黄土色から山吹色に替わり、原作より明るい雰囲気醸し出されている。また原作では、昔の民衆の服装、村や家の様子、食卓、楽器、洗濯場等、昔の韓国の暮らしが一目でわかるよう、暖かいタッチで描かれている。
- ・このコンビでの本は、他に『よわむしごうけつ』・『りんごのおくりもの』・『あおがえる』等がある。

<学習の手引き>

「民話や物語の組み立てを考えよう」

次の組み立ては、多くの民話・昔話や物語に当てはまるもののひとつです。

- ① はじまり
 - ・物語がくり広げられる「場」（時・場所・人物など）のしようかい。
- ② 出来事（事件）が起きる。
 - ・登場人物がこまる、など。
- ③ 出来事（事件）が変化する。
 - ・解決に向けて、出来事が動いていく。
- ④ むすび

(24)

- ・出来事（事件）が解決する。
- ・その後どうなったか。

▼ 上の①から④について、「三年とうげ」ではどうなっているかを考えましょう。

- ① どんな場所の話ですか。どんな人物が出てきますか。
- ② どんな出来事が起きましたか。
- ③ 解決に向けて、新たに、どんな人物が登場しましたか。
- ④ どのように、解決しましたか。
その後、どうなりましたか。

☆ これまでに読んだ民話・昔話や物語に、①から④のような組み立てのものはありましたか。思い出して、発表しましょう。

言葉

- ▽ 「三年とうげ」には、声に出して読むと調子のよいところがたくさんあります。さがして、読みましょう。
- ▽ 「三年とうげ」の本文から、すてきだな、自分も使ってみたいなと思う言葉や文を、ノートに書き出しましょう。

C 比較

① 目標や学習の手引き

- ・ 「三年とうげ」という昔話を通して、韓国では漫画という手段を使って、顔の表情や動作から、人物の心情の変化を読み取るのがねらいである。日本では、物語の組み立てを考える—各場面の移り変わりを押さえながら、人物の気持ちや情景を読みとっていく—という二段構えのねらいが位置づけられている。「登場人物の気持ちや行動の変化を読み取る」ことが共通目標である。
- ・ 目標を受けて学習の手引きは、韓国の場合、主人公のおじいさんの気持ちの変化を、よく表れている4場面の顔の表情で読みとらせている。日本の場合、物語の組み立てを常に意識させながらの発問で、場面に沿っておじいさんの気持ちの変化をくみ取ることが出来る。

② 作品の内容

- ・ 韓国では会話中心の漫画であるために、季節感や景色など人物以外の描写が極力描かれていないが、日本では峠の風景や季節などが、色彩豊かに言葉で表現されていて想像力が養われる。
- ・ 韓国では、峠に「この峠で転ぶと三年しか生きることができない」とい

う看板があり、転んだ老人がそれを見て驚くという設定である。(手元にある2冊の『三年とうげ』の韓国昔話絵本には、2冊とも峠の言い伝えを誰もが知っていて、転ばないように通ったとある)。日本では、峠の言い伝えをリズムカルな口調でまとめてあるので、児童もすぐに暗唱して身近なものに出来る。

- ・ 知恵を授ける者は、韓国では本好きな若者であったが、日本では水車屋のトルトリ(韓国語で、利口なしっかり者という意味)である。(ちなみに、2冊の韓国絵本では、旅人と少年であった。知恵者としての限定はないようである)。

(2) 「木かげにごろり」

日本の教科書では「3年生 下」、韓国では「6年生 2学期」の「読む」の教科書に掲載されている。

A 韓国「木かげを買った若者」

単元「心のひびき」の5作品中3番目に掲載されている。

<出典>『木かげを買った若者』(ミン・ヨン 文 ユ・ヨンジュ 絵
韓国伝来童話30 ウンジン出版 1989)

*現時点では日本語訳絵本は出版されていない。

- ・ 原作では、若者が金持ち老人から5両で木かげを買い、毎日のように若者が木かげのある家の中までやって来たので、金持ち家族は生活が出来なくて家を捨てたとある。
- ・ 教科書は原作より後半がかなり加筆されている。金持ち老人がたくさん客を招いているところへ、若者や友達がやって来て寝転がるので、客人が訳を聞き、老人を非難する。老人は友人たちまでも失い、家も捨て村を離れたという顛末である。(元の昔話がこの形であり、原作絵本の方が省略されたストーリーであると思われる。)
- ・ 原作も教科書も、金持ち老人が出て行ったあと若者は、木かげや家を誰でも安心して休めるようにしたと結んでいる。
- ・ 絵は、絵の輪郭を墨の濃淡で勢いよく描いている。金持ち老人と若者の2人対決がテーマだとすぐわかるほど、どのページも2人のアップばかりで話が進む。背景は、木の幹とかげと塀の屋根瓦、土間ぐらいが描かれているだけである。

<単元目標> (筆者訳)

- 笑いを誘う文を読むと、どんな点がよいですか？

(26)

笑いを誘う文を読むと、おもしろい場面が浮かび上がります。機知に富んだ表現に示された滑稽なようすは、自然に笑いが出てきます。笑いを誘うようすを想像して文章を読んでみましょう。

笑いを誘うようすを考えながら、お話を読んでみましょう

- 笑いを誘うようすを考えて、次のお話を読んでみましょう。
「木かげを買った若者」（*教科書には作者名と画家名が記載されていない）

<学習の手引き>

- 「木かげを買った若者」を読んで問いに答えてみましょう。
 - (1) 若者はなぜ、木かげを買うことになりましたか？
 - (2) 太陽が傾くと若者はどうしましたか？
 - (3) 金持ちの老人が5両を戻すから、なかったことにしようと頼んだわけは何ですか？
- 「木かげを買った若者」をもう一度読んで笑いを誘うようすを思い出してみましょう。
 - (1) このお話で笑いを誘うようすを整理してみましょう。
 - (2) このお話で面白かった点を友だちと話しあってみましょう。
 - (3) 面白かったお話をさらに探して友だちに紹介してみましょう。

今までに習った内容を整理してみましょう（単元のまとめ）

- 1 次の話を読んで笑いを誘う文章の効果を確認してみましょう。
- 2 笑いを誘う部分を探して、友だちや家族に紹介してみましょう。

B 日本「木かげにごろり」（東京書籍）

単元目標「世界の民話を読もう」（読む）

<出典>『こかげにごろり』（金森襄作・文、鄭王叔（王へんに叔）香（チョン・スクヒャン）・絵 「こどものとも」11月号 福音館書店 2002）

- ・ 教科書の挿絵が原作と似ているが、教科書用に描き直してある（絵本は横書きで左開きだが、教科書は右開きで縦書きなので、その効果のためもあると思われる）。
- ・ 絵は、韓国の大学で東洋画を専攻し、日本では日本画を学んだ画家らしく、隅々まで細かく描かれている。田園風景、地主の庭や家の中、法事の準備の様子、法事のごちそうなど、丁寧に描かれている。

- ・ 韓国の原作では、最後に地主は家を捨てて村から出て行ったのだが、作者は「ごちそうを絵にかいて祖先に供えた」と言う結末に替えている。
- ・ このコンビによる本は、他に『おどりトラ』・『おぼけのツッケビ』・『あそびトラ』等がある。

<学習の手引き>

○世界の民話を読んで、民話のおもしろさを味わいましょう。

◆物語のおもしろさについて考えよう

○「木かげにごろり」を読んで、どんなところがおもしろいと思ったか、それはどうしてだと思うか、話し合ってみましょう。次のようなところに気をつけましょう。

- ・ 木かげののび方
- ・ おひやくしょうと地主とのやりとり
- ・ 人物のせいかくや行動
- ・ おもしろい言葉や調子のよい文章

◆世界の民話を読もう

「木かげにごろり」は、朝鮮半島につたわる民話ですが、中国にも似た話があります。世界の各地で、長く語りつたえられてきた話には、ほかの国の話とにている話もあれば、その国ならではの、めずらしい話もあります。いろいろな世界の民話を読みましょう。

◆「民話のしょうかいカード」を作ろう

○読んだ民話をしょうかいするカードを書きましょう。

友だちのしょうかいカードを見て、ほかの民話を読んでみたり、感そうをつたえ合ったりするとよいですね。

C 比較

① 目標や学習の手引き

- ・ 単元目標が、韓国の場合は、「笑いを誘う様子を考えながら読む」とポイントを絞って読むのに対して、日本の場合は「世界の民話を読もう」で漠然としているが、学習の手引きで「民話の面白さを味わう」と焦点化され、同じ目標といえる。
- ・ この単元目標を受けて、「学習の手引き」の発問を比較してみると、韓国の場合、(1)～(3)の発問が必ずしも「笑いを誘う状況」に近いとは言えない。そのあとの発問で「笑いを誘う様子を整理しましょう」と自分で見つけるようになっている。この民話は権力者に対して民衆が知恵を出して懲らしめるのがテーマで、キーワードが「木かげの伸び」といえる。

(28)

日本の場合は、「どこが、なぜおもしろいか」と聞き、気を付けるポイントが示してある。それが、「木かげののび方」であり、「百姓と地主のやり取り」であり、「人物の性格や行動」であり、面白さを見つけやすくしてある。この問いの細かさの違いは、韓国の場合は6年生であり、日本は3年生で学習するという学年差異もあると考えられる。

- ・ 学習後、友達と意見を比較しあったり、他の民話を紹介し合ったりするのも同じである。目的を持って読書をすることで意欲的な活動となる。韓国は「面白かったお話をさらにさがして紹介しよう」と、「笑いを誘うようす」が含まれればどんな分野でもかまわないととらえることができる。日本の場合は、「民話のしょうかいカードをつくろう」と、具体的なカードの例も記載してある。この丁寧さも、6年生と3年生の違いととらえることができよう。

② 作品の内容

- ・ 韓国の登場人物は、金持ちの老人と若者であるが、日本は地主と複数の百姓たちである。
- ・ 木かげの値段は、韓国では5両、日本ではたくさんのお米やカボチャ・豚・鶏等を村中から集めて代金とした。
- ・ 結末が、韓国では、金持ち老人は友人も家も失って村を出て行ったが、日本では、百姓たちに法事のごちそうを食べられてしまったので、絵を描いて先祖に供えたとある。この場面は作者による創作である。
- ・ 画家鄭王叔（王へんに叔）香のあとがきより
文章の夫・金森も大変でした。自らの強欲さによって「両班」（地主）として最も大切な「法事」をぶち壊された。それは「両班たる対面」を根底から汚されたことを意味し、当人は親戚から絶縁されて、村から出て行かねばならなかった。これがお話の結末なのですが、「両班の対面」、今の韓国の子どもでも理解できない昔の概念を、日本の子どもがわかるはずがなく、物語の面白さを失わないで、いかなる結末とするのか、悩みぬいたそうです。

（福音館書店 月刊「こどものとも」2002年11月号折りこみふろく「絵本の楽しみ」より）

6 まとめ

今回分析した韓国の教科書は第六次（1992－）と第七次教育課程（1998－）と「2009年改定教育課程」のものである。日本の教科書と比べ、多くの教材に接することで、自分の考えや判断を培う土台が養成されていくと考えられる。韓国昔話2

作品だけの教科書比較でしかないが、学習の手引きをみると、日本の方がきめ細やかな組み立てになっている。これは今後、他出版社の韓国昔話も比較しながら調べていきたい。

今回、教科書書き下ろし用の漫画以外の3冊の原作絵本は、丁度手元にあったので、教科書の挿絵と比べながら比較することが出来た。そこで気付いたことは、日本で出版された2冊の絵本の方が、韓国らしさをふんだんに味わうことが出来るということである。韓国の昔の風景、暮らし、食事、民俗衣装等、韓国の伝統的生活がこと細やかに描かれ、生活する人々が生き生きと暮らす姿があった。日本の子どもたちに、韓国という国を知ってほしいという2人の画家の思いが熱く伝わってくるような昔話絵本である。韓国の漫画と絵本の場合は、自国の子どもたち向けなので韓国らしさよりも、テーマの方を優先、テーマ中心の表現方法で描かれたのであろう。

日・韓・中3国の小学校で実践した授業後の感想比較から、日本の児童は情緒豊かで、相手を思いやる気持ちに長けていた。東日本大震災を例にとってみても、被災者の方々はどうな状況でも自己中心的にならず、いつも相手を思いやる姿勢を貫き、世界中を驚かせた。これは日本人の誇りともいえ、「日本人魂」をとどろかせた。長年培われた国語や道徳教育が基盤になっている可能性もありといえるだろうか。

しかし、優しさだけでは国際社会に生きていけるのか。即座に善悪の判断をし、行動に移す機敏さは重要かつ必要である。最近の日本を震わせるさまざまな出来事に対し、後手に回ってしまう国の対応を見ていると、これまた今までの教育の責任もありかと考えざるを得ない。

国語教科書の編集次第で、思考力や表現力、判断力等の優劣が決まるとは言えないが、母国語である以上授業時間数は一番多く、影響力があることは確かである。そのために、教科書は時代に沿いつつ何度も改定がなされてきている。

日本も今年から新教科書が適用された。今まで指摘されてきた弱点が大きく改良されている。一朝一夕には成果は出ないだろうが、じっくり取り組めば、思考力や判断力、コミュニケーション力もしっかりと身につくことが出来るであろう。大いに期待するところである。そして、堂々と国際社会へ飛び出して行ってほしい。今後も、日韓の新教育課程を見守りながら、元教師の利点を生かしつつ、日韓の子どもたちのために歩みを進めたい。

* 足立悦男先生には、現職教師時代、大学院生時代、早期退職後もと、長きに渡ってご指導いただいている。韓国・大田の小学校で授業をした時は、同行・授業録画までしてくださった。

足立先生にかかること、何でもない一教材が急に芸術性あるものへと変身する。

(30)

自分が把握していた教材の「目からうろこ」状態が何度あったことか。足立先生の授業そのものが芸術品であったといっても過言ではない。教師として、一人の人間としての足立先生との出会いは、私の人生においても宝物の一つである。そして、スケールの大きな視野でのアドバイスは、私自身の生き方にも響くものとなった。心から感謝申し上げたい。

日本の国語教育のために、日韓中との架け橋のために尽くされた功績は素晴らしいものだと思っています。研究者のみならず、島根大学附属小学校校長、島根大学副学長といった行政マンとしても活躍されました。長い間お疲れさまでした。今後は国際人として、さらに研究や交流の場を広げられそうですね。これからもご指導よろしくお願ひ致します。

<参考文献>

- 注1 山本美千枝『日韓昔話絵本比較と教材化の研究』 島根大学教育学研究科修士 論文 2004
- 注2 金京姫『日・韓の小学校国語教科書の考察』 島根大学教育学研究科修士論文 1999
- 注3 韓国教育科学技術部 初等学校国語教科書 全学年 2002
- 注4 鈴木文子「日本の道徳テキストにみる規範伝達と教育—韓国との比較」
『日韓相互理解プログラムの開発研究』島根大学 2002
- 注5 文部省『小学校学習指導要領』 1998
文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』 1999
文部省『小学校学習指導要領解説 国語編』 1999
- 注6 造事務所編『こんなに違うよ！日本人・韓国人・中国人』PHP文庫 2010
- 注7 本村汎・洪上旭「日韓両国の親子関係をめぐる比較研究」
『大阪教育大学紀要』第32巻 1983
- 注8 韓国教育科学技術部「2009年改定教育課程」電子版 2009.12.18
- 注9 韓国教育科学技術部 初等学校国語教科書 全学年 2011
- 注10 財団法人教科書研究センター『平成19年度事業報告書』
「初等中等教育の国語科の教科書及び補助教材の内容構成に関する総合的、比較教育的研究—学力の基礎をなす言語能力の形成を中心として—」 2007
- 注11 光村図書、東京書籍、教育出版の国語教科書全学年2010
- 注12 光村図書 教師用指導書『国語 三年生』